

学校だより 校訓「創造」「感動」「鍛錬」

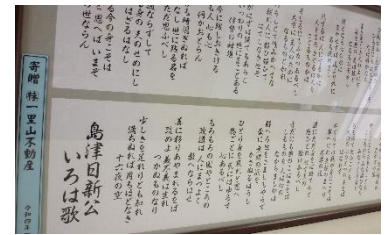
令和3年度 第11号（2月24日発行） 校長 亀山 浩一

「島津日新公いろは歌」

鹿屋市にある一里山不動産から「島津日新公（しまづじっしんこう）いろは歌」の寄贈がありました。A棟一階、職員用靴箱の上に、掲示してありますので、学校にお越しの際はご覧ください。

島津日新公とは、島津忠良のことで、垂水島津家の初代「忠将（ただまさ）」の父親にあたる方です。忠将の兄である島津貴久は、島津本家の第15代当主です。貴久の子どもが第16代義久、義久の弟が第17代義弘、その弟が第18代家久です。このころ（戦国時代）島津家が1番強い時代で、九州の大半を治めるほど勢力を拡大させていました。

忠良（日新公）は33歳で家督を、子どもの貴久に譲り、剃髪して出家し、日新公（日新斎）となります。日新公が、5年あまりの歳月をかけて完成させたのが、薩摩藩「郷中教育」の基本精神となったといわれる47首の歌「日新公いろは歌」です。現代の私たちにも通じる多くの示唆を含んでいますので、いくつか紹介します。



い いにしへの 道を聞きても 唱へても わが行に せずばかひなし

⇒ 昔の賢者の立派な教えや学問も口に唱えるだけでは、役に立たない。実践、実行することがもっとも大事です。

ろ 楼の上も はにふの小屋も 住む人の 心にこそは 高きいやしき

⇒ 立派な御殿に住んでいようと、粗末な小屋に住んでいようとも、それで人間の価値は判断できない。心のあり方によってこそ真価が決まります。

に 似たるこそ 友としよけれ 交らば 我にます人 おとなしきひと

⇒ 人は自分と似たような人と仲良くなるが、それだけでは進歩は望めない。自分より優れた見識を持つ者、違った感覚をもった人を友とすることで自己研鑽をすることが必要なことです。

ほ 仏神 他にまします 人よりも 心に恥ぢよ 天地よく知る

⇒ 神仏はどこにでもいるものではない。自分の中にいるのだ。恥ずべき行動をしたら、自分の良心に恥じよ。世間は欺けても自分の心は欺けない。

（全校集会の講話から）

食育指導

学校給食週間に合わせて、垂水市学校給食センターの栄養教諭平野朋子先生を各学級の講師にお招きし、担任の先生と一緒に食育の授業を行いました。

朝食レシピを考える授業では、「からだは食べものからできている」のテーマの基、生徒は考えを出汁（だし）ながら、バランスの良い献立づくりに取り組んでいます。



表彰

若草文学賞

【優秀賞】2年 前田 結, 3年 有川 叶恵
【推薦】1年 田之上礼佳, 2年 柳田 峻汰

和田英作・和田香苗記念絵画コンクール

【和田香苗賞】1年 西原 昊
【奨励賞】3年 上之脇優人
【パトラッシュ賞】1年 田中 椋杏
【ジュニア市長賞】2年 河野 輪
【ジュニア教育長賞】2年 中村 咲希
(和田香苗賞の作品は垂水市のHPに掲載)

日	曜	3月の主な行事
3	木	公立高等学校入学者選抜（～4日）
3	木	1, 2年クラスマッチ
6	日	第2回PTA奉仕活動
10	木	1, 2年学級PTA
14	月	公立高等学校追加の選抜
15	火	第12回卒業式
16	水	公立高等学校合格者発表
18	金	生徒会専門部代議員会
24	木	公立高等学校第二次入学者選抜
25	金	修了式
25	金	第二次入学者選抜合格発表
28	月	辞任式